



国際

沿岸レポート

濱口梧陵国際賞 授賞式

一般財団法人沿岸技術研究センター
研究主幹 西園 勝秀

わが国の津波防災の日である11月5日が、2015年12月の国連総会において「世界津波の日」に制定されました。これを機に、国土交通省、内閣府政策統括官（防災担当）等の皆様からのご後援をいただき2016年創設された「濱口梧陵国際賞」は、津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を表彰するものです。

今般、2019年の受賞者が次の2名に決定し、10月29日（水）に海運クラブにて授賞式が開催されました。

○柴山 知也 早稲田大学教授／横浜国立大学名誉教授

- ・40年以上にわたって津波、高潮、高波による沿岸域の被災機構を解明する研究を現地調査、数値予測、水理実験などの手法を用いて実施。2010年チリ津波、2011年東北地方太平洋沖地震津波などで、調査隊長を歴任。

○Ahmet Cevdet Yalciner 教授 中東工科大学（トルコ）

- ・数十に及ぶ国際科学プロジェクトを通じて、津波の数値解析、津波への認識の向上、津波対策などにおいて多大な貢献。2004年以降、ユネスコにおける多くの津波事後調査チームを率いた。

授賞式では、赤羽一嘉国土交通大臣、二階俊博自民党幹事長による来賓のご祝辞、濱口梧陵国際賞選考委員会の河田恵昭委員長（京都大学名誉教授／関西大学特任教授／人と防災未来センター所長）による受賞者と受賞理由のご紹介の後、赤羽国土交通大臣から受賞者の皆様に表彰盾が贈呈されました。



柴山 知也 教授



Ahmet Cevdet Yalciner 教授



授賞式



2019年9月9日未明から早朝にかけて、台風15号は伊豆大島付近から北上し、三浦半島を通過した後、東京湾を縦断し千葉市付近に上陸しました。(図-1)

この台風は関東に上陸した台風としては、中心気圧が低く風が強いことが特徴で、進路の東側にあたる伊豆諸島や房総半島では記録的な暴風が吹き荒れ、家屋の倒壊や送電線等のインフラ被害など甚大な被害が発生しました。

この暴風によって東京湾内では異常波浪が発生し、横浜港では複数のふ頭で護岸が倒壊し、船舶の衝突によって臨港道路の破損、海釣り公園施設の破壊等が発生しました。

当センターでは、この台風15号による高波の発生状況を気象庁の風データ(LFM)を入力値とし、最新の波浪推算モデルによって再現したところ、今回の異常波浪にはこれまでにない特徴があることがわかりましたので、ご報告致します。

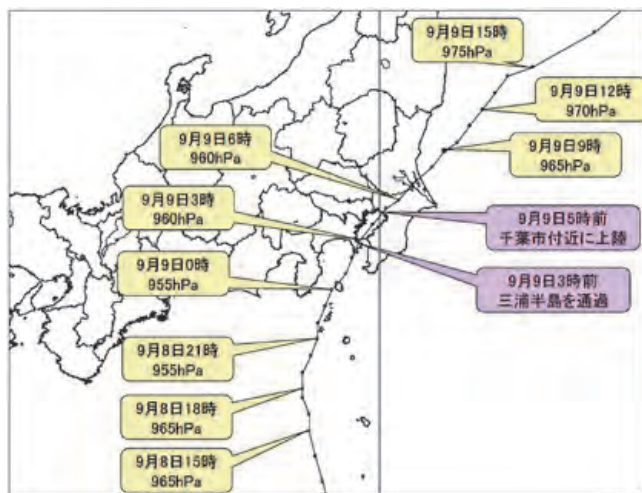


図-1 台風第15号の経路等(出典：東京管区気象台)

図-2は今回の波浪推算値を東京湾口の第二海堡で検証したものです。第二海堡では最大で35m/s以上の強風が吹き、3m以上の高波浪が見られますが、波浪推算値もこれらを再現していることがわかります。

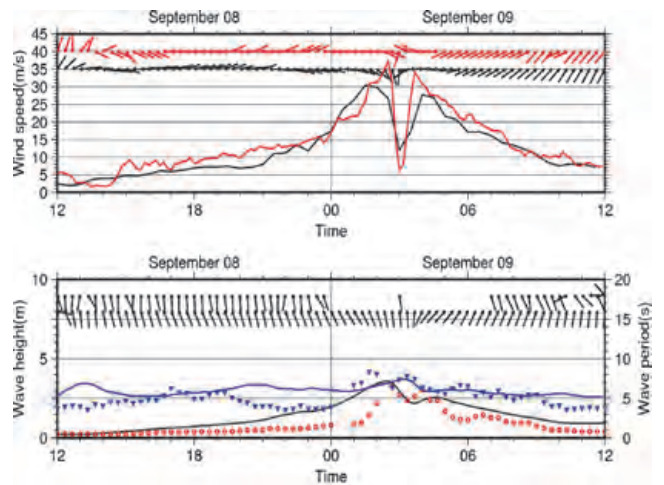


図-2 波浪推算値の観測値による検証(第二海堡)
 【上図】赤のプロット：観測値 黒のプロット：推算値
 【下図】黒実線：推算波高 青実線：推算周期 ○：観測波高
 ▼：観測周期 上段の矢印：観測波向 下段の矢印：推算波向

図-3は横浜港金沢沖での最大波浪の方向スペクトルを示したものです。周期5～6秒の南東と東北東の2つの波向で波浪のエネルギーピークが見られることがわかります。これは台風が横浜港の近くを通過したことにより風向が急変し、横浜港には東北東方向(木更津方面)と南東方向(富津方面)の2つの方向から高い波が同時に襲来していることを示しており、この2方向からの高波浪の襲来が被災をもたらした一因であるとも考えられます。

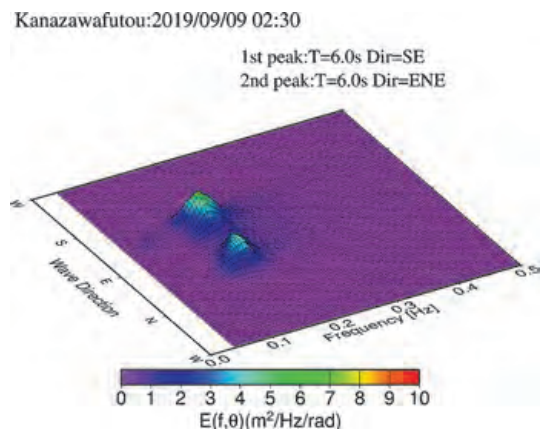


図-3 横浜港(金沢沖)における最大波浪の方向スペクトル(推算値)